

萩図書館の蔵書構成計画



萩市立萩図書館

目 次

■蔵書構成計画の目的 ————— (1)

- 1) 萩市勢の概況
- 2) 萩図書館の歴史と現況
- 3) 計画策定の基本的な考え方

■蔵書構成計画 ————— (4)

- 1) 蔵書の現況
- 2) 分野別の収集計画
- 3) 地域情報の収集
- 4) デジタルアーカイブの充実
- 5) 電子図書館の整備・充実

■レファレンス体制の整備 ————— (9)

■蔵書構成計画の目的

1) 萩市勢の概況

萩市は、山口県の北部に位置し、総面積は698,8平方kmで、県土の11.4%に当たります。地形は、全体として中国山地から日本海に向う傾斜地で、低地は阿武川河口部の市街地とその周辺に見られ、臨海部になだらかな丘陵地が広がっているものの、大半を山地が占めています。

歴史は古く、10世紀前後には長門国阿武郡は、周防国とともに後白河院の知行する阿武御領と呼ばれていました。

慶長9年(1604)毛利輝元が広島から移封され、三角州に城下町を造営し、以来、廃藩置県に至るまでの260年余り、毛利36万石の城下町として発展しました。また幕末から明治維新にかけて、近代日本を先駆けた多くの人材を輩出しました。山口県が誕生したあと、明治22年(1889)の「明治の大合併」と昭和30年(1955)の「昭和の大合併」で現在の萩市の基となる旧萩市・川上村・田万川町・むつみ村・須佐町・旭村・福栄村が編成され、平成17年(2005)3月6日、これら1市2町4村が合併して「新萩市」となりました。

萩市の人口は、少子・高齢化、過疎化などの影響で、減少傾向を辿り現在5万3千人台で推移しています。

産業別の就業構造は、第1次産業16.1%、第2次産業19.6%、第3次産業64.0%で、第2次産業と第3次産業の比率や年間150万人前後の観光客数などからも、当市は全国的な観光文化立市であります。また、有数の農林・水産業地域であり、萩焼に代表される伝統工芸品の産地としても高い位置にあります。

萩市は、歴史・文化遺産、自然を活用したまちづくりを「萩まちじゅう博物館構想」としてその実現に取り組んでいます。

2) 萩図書館の歴史と運営の現況

当館は、明治34年(1901)阿武郡立図書館として開設されました。大正12年(1923)山口県立萩図書館となり、昭和20年(1945)に開設された萩市立図書館と合併し、昭和26年(1951)萩市江向に山口県立萩図書館が新築されました。

昭和49年(1974)県の「一県一館」の方針により現在地横に萩市立図書館が新築されました。これに併せ県が所蔵していた藩校明倫館の蔵書や松下村塾で蔵版された貴重な蔵書4万点と明治期から蓄積されてきた新聞などが、萩市に移管されました。

平成4年(1992)に移動図書館を導入し、平成13年(2001)には隣接地に子ども図書館が開設されました。

平成17年(2005)の合併に伴う「新萩市」の発足により、館名が萩市立萩図書館となりました。

従って、新市では、萩図書館と須佐図書館、明木図書館の3館でネットワークを組み、相

互貸借をはじめ連携を密にして、より良い図書館サービスを目指すことになりました。

平成23年3月21日、図書館・児童館の複合施設『萩あいぶらり』が現在地にオープンしました。図書館の延べ床面積は、2914㎡です。また児童館内には、114㎡の子ども図書館を設置しています。市民に親しまれ、気楽に利用できる、ひとづくりや暮らしに役立つ図書館を基本理念として運営を行っています。

原則年中無休、開館時間も午前9時から午後9時までとし、来館者の利便性を高めています。又、電子図書館や自動貸出機、読書通帳なども新たに導入しています。

さらに明治維新関連資料の整備と維新史・郷土史に関するレファレンス・サービスの充実を目指し、新たにレファレンス専門員制度を導入しました。

これらの運営は、「NPO萩みんなの図書館」と「行政」の“協働”という手法を取り入れたことで実現したものです。“協働”という画期的ではありますが、最も難しい試みが成功するには、偏にNPO法人の今後の成熟に期待するばかりです。

開館時の資料数は、21万9千点。市の職員5人、NPO会員30人、NPO役員5人、NPO職員18人で運営しています。

3) 蔵書計画の基本的な考え方

私たちを取り巻く社会環境は、過疎化、少子・高齢化、産業構造の流動化など想像を超える変化をしており、私たちの生活そのものも変容を余儀なくされています。これらは図書館の役割にも大きく影響を及ぼしています。

市民からの情報要求は、従来の読書を楽しむという観点から、年々多様化・高度化し、図書館の役割は課題解決の一助を求めるという全国的な趨勢に添う形で変化しています。

文科省の主催する研究会の答申でも「従来の文化教養的図書館から、調査研究支援、レファレンス・サービス等の提供により、地域の課題解決を支援し、地域の振興を図る図書館としての役割」がより重要であるとしています。

当図書館は前記答申の趣旨を踏まえた上で、萩市の地域性を勘案し「市民が必要とする資料・情報の提供を通して市民生活を支援する」という本来像に向けて努力したいと考えます。

勿論、図書館は地域の文字・活字文化振興の拠点であり、子どもから大人まで誰もが読書に親しむことが出来る“場”であることはいうまでもありません。

私たちは、図書館の根源的役割の上に、時代と地域の要請に応えられる多様な情報資源の収集と提供を行いたいと考えます。

□資料収集の基本

- ①日常生活を支える情報センターとなるよう収集します。
- ②幅広い分野の資料を、自己規制に捉われず自由に選択し、適切に収集します。
- ③多様な形態、媒体の情報・資料を収集します。

図書、雑誌、新聞、地図、冊子、パンフレット等のほか、CD、DVDなどの録音、映像資料、電子図書等デジタルコンテンツも積極的に収集します。

□種別の収集の基本

- ①一般図書・・・利用者のニーズに配慮し、一般的、実用的或いは基礎的、入門的な資料を収集します。分野によっては専門分野に踏み込み、時事性、話題性に対応した資料を収集します。
- ②参考図書・・・必要な辞典、事典、年鑑、目録、書誌、統計、地図、電話帳等を収集します。
- ③児童図書・・・幼児、児童の興味や関心のある分野の本を幅広く収集し、心豊かな子どもたちの育成を支援します。
- ④ティーンズ図書・・・中・高校生の心の成長を支える資料、学習や課題解決に役立つ資料、読書の楽しみを感じる資料を収集する。
- ⑤逐次刊行物・・・全国紙と身近な地方紙、各分野の主要な雑誌を継続して収集します。
- ⑥視聴覚資料・・・学習や趣味など暮らしに役立つ資料を幅広く収集します。
- ⑦視覚障がい者資料・・・録音図書や弱視者、高齢者のための大活字本などを収集します。

なお、郷土資料、明治維新史関連資料、行政資料、電子資料については別記します。

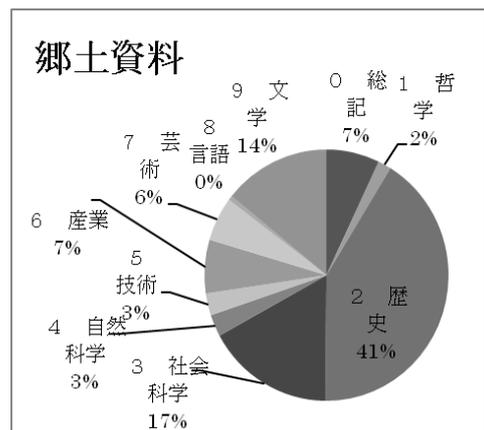
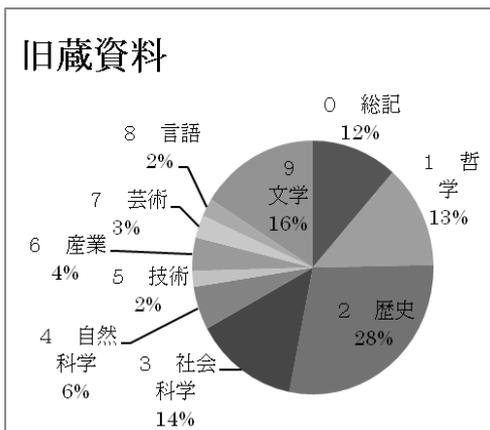
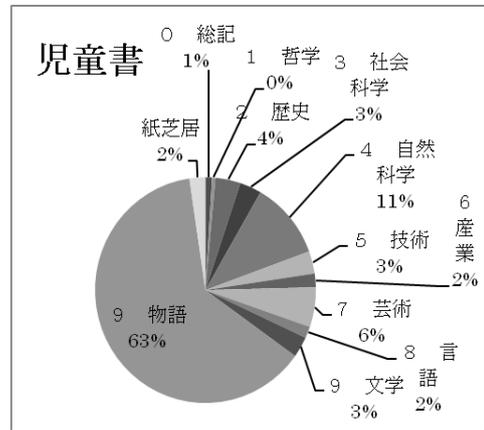
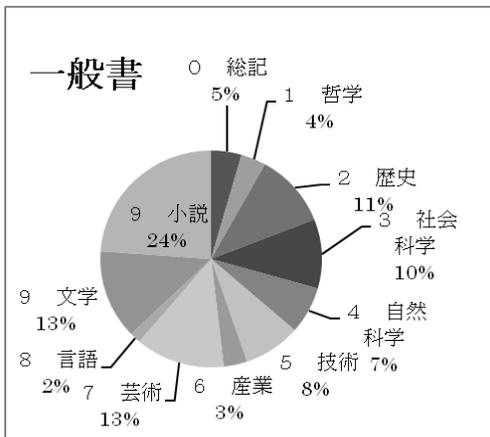
■蔵書構成計画

1) 蔵書の現況

- 0 総 記 百科事典や雑学、新聞などのジャーナリズム、図書館関係の分野です。百科事典は情報が年々古くなるため、情報検索データベース「ジャパンナレッジ」等により情報を補えるようにしています。
また情報科学の分野として、パソコン関係の本もこちらに分類してありますが、次々と発行される新しいマニュアル本の収集に追いついていない状況です。
- 1 哲 学 哲学、心理学、倫理学、宗教の分野です。心理学の中には、心霊研究や占い関係が含まれ、これらの本がよく借りられています。また、倫理学関係の人生をどう生きたらよいかといった人生訓の本の分野のリクエスト・貸出が非常に多くなっています。
- 2 歴 史 幕末・明治維新関係図書を幅広く収集し、郷土資料では歴史の分野が4割を超えています。明治維新や郷土史料を除く一般的な歴史分野も10%を超えており、地理の分野の観光ブックの利用率も高くなっています。

- 3 社会科学 政治・経済、法律、国際問題、国防、労働、教育、家庭、冠婚葬祭などの風俗習慣の分野です。出版点数が多く、蔵書数も一般書では1割を占めており、家庭教育や家族の問題の本の貸し出しが多く、更に介護や災害関係を含む社会福祉の図書の貸出数も増加しています。
- 4 自然科学 物理・数学、地学・天文学、生物学、動物学、植物学、医学の分野です。児童書では文学を除き最も蔵書数の多い分野で、昆虫の本が人気です。一般書では、医療・病気に関する図書が圧倒的に利用が多く、特に健康に関する本の蔵書数も多く、リクエストや貸出も多い状況です。
- 5 技 術 建築、自動車や原子力、鉄道や船舶など各種工学、工業に関する分野です。また、家政学・生活科学の分野でもあり、料理や手芸、育児関係の本が含まれます。全分野における割合は一般書では、8%ですが、このうち約半数が生活科学の本となっており、貸出冊数も小説を除き、料理関係の本が全分野で最も多くなっています。手芸の本も非常に利用が多いですが、料理・手芸ともに古い本が多いのが現状です。
- 6 産 業 農業・林業・水産業、商業、観光事業を含む運輸・交通関係の分野で、犬や猫などのペット関係も含みます。蔵書数は比較的少ないですが、農業、野菜作りや園芸関係の利用は多く、需要に合わせて冊数の増加が必要です。
- 7 芸 術 陶芸、彫刻 絵画などの美術、音楽、演劇、映画、音楽、スポーツ、花道や茶道などの諸芸の分野です。コミックもこの分野に含まれます。やきもの本が多く、蔵書数は他の分野より多くなっていますが、やきもの関係は、大半が古い資料です。
- 8 言 語 手紙の書き方や方言の本を含む言葉の分野です。各種外国語の会話の本をそろえています。各言語の辞書が不ぞろいな状況です。
- 9 文 学 最も蔵書数の多い分野です。中でも小説は全分野において2割を超えています。小説のうち2割が外国の小説です。書架のスペースの問題もあり、大活字本を除き、単行本と文庫本など大きさの異なる同一の本をそろえることは、ほとんどしていませんが、手軽な文庫本を求められることも少なくありません。

分類	一般書		児童書		郷土資料		旧蔵資料		
0 総記	5,061	5%	286	1%	935	7%	4,600	12%	
1 哲学	4,181	4%	152	0%	230	2%	5,270	13%	
2 歴史	12,575	11%	1,102	4%	5,484	41%	11,380	28%	
3 社会科学	11,817	10%	953	3%	2,239	17%	5,560	14%	
4 自然科学	8,025	7%	3,352	11%	374	3%	2,210	6%	
5 技術	9,559	8%	974	3%	376	3%	810	2%	
6 産業	3,916	3%	589	2%	915	7%	1,700	4%	
7 芸術	14,947	13%	1,721	6%	754	6%	1,160	3%	
8 言語	1,852	2%	497	2%	74	0%	920	2%	
9 文学	小説以外	15,209	13%	904	3%	1,882	14%	6,390	16%
	小説	27,309	24%	18,895	63%				
紙芝居	—	—	699	2%	—	—	—	—	
計	114,451	100%	30,124	100%	13,263	100%	40,000	100%	
小計	197,838 (一般書・児童書・郷土史料・旧蔵資料)								
視聴覚資料	8,288								
雑誌	7,873								
読書会文庫	6,105								
合計	220,104								



2) 分野別の収集計画

0 総 記

- ・パソコンソフトの解説書など情報科学の本は、進歩、進展が著しいので、常に新しい本を購入し、資料の更新を図ります。

1 哲 学

- ・分野内で偏りが無いよう留意し、資料の適正な追加を行います。

2 歴 史

- ・地図も含め、日本・外国ともに随時観光ブックの更新を行います。

3 社会科学

- ・政治・経済、法律などは、各分野の入門書・概論書などの充実を図ります。
- ・身近な法律問題、税金や年金、労働関係の本は改版等の出版情報に留意し、常に新しい内容の本をそろえます。

4 自然科学

- ・医療関係の図書は、来館者向けの医学全書を備えるとともに、常に新しい情報が得られるよう新刊書の収集に努めます。
- ・医学関係を除き、各分野の基本図書の収集を図ります。

5 技 術

- ・家政学・生活科学の分野は、全般的に資料の利用状況を考慮して既存資料の見直しを行い、新刊書の収集を行います。
- ・その外の分野は、蔵書数が少ないので、基本資料を中心に充実を図ります。

6 産 業

- ・観光事業や農林・水産業など、地域産業の活性化に役立つ資料の充実を図ります。

7 芸 術

- ・萩焼関係などの郷土資料は比較的充実していますが、今後も焼き物全般に広げ、鋭意収集を行います。
- ・スポーツ関係・諸芸・娯楽の本は、雑誌の収集も考慮し資料の更新を行います。

8 言 語

- ・各言語の辞書をはじめ基本図書を充実させます。

9 文 学

- ・主として小説の既存資料の見直しを行い、現在所蔵割合の低い外国文学の新刊に留意し収集します。

3) 地域情報の収集

娯楽、趣味、教養といった本来的な読書に加えて、課題解決型の読書傾向が強まっていることから、当館も、これらに対応した活動を展開致します。

①特設コーナーの設置

[学びたい・働きたい気持ちを応援するコーナー]

大学入試情報雑誌「螢雪時代」や大学案内の図書等に加えて、市内県立高校、県内私立高校、山口福祉文化大学や県内大学の募集要項・要覧を取り寄せ、進学に関する資料を配架しています。

また、職業ガイドのシリーズの児童書をはじめ、資格取得のガイド本や面接や転職に関する本、萩及び長門のハローワークの求人情報パンフレットを収集し、就職活動を手助けする資料を並べています。

要綱・パンフレット類はご自由にお持ち帰りできるものもあり、今後も継続して随時収集し提供を行います。

[外国人サポートコーナー]

外国人が日本で暮らし、働くために役立つ情報提供のコーナーで、英語による萩の観光パンフレットや東京ガイドのパンフレット、「外国人の税務」「外国人よろず相談」などの図書をそろえています。日本語と英語の両方の言語表記の図書は、英語学習者にも役立ち、外国人に日本を案内できる情報提供のコーナーでもあります。持ち帰りできるパンフレット等は、特に定期的に補充を行っていきます。

[観光パンフレットコーナー]

一般図書コーナー内に、日本及び外国の観光ガイドブックを集めた「旅コーナー」を設けていますが、図書館入口付近のエントランスホールには全国の観光パンフレットを収集・配架し、自由にお持ち帰りできる資料としており、貸出図書と併せて活用していただいています。

今後も萩市の各種観光資料はもちろんのこと、全国の観光資料を収集し定期的に補充を行い提供します。

②郷土資料・維新資料・行政資料 の充実

[郷土資料]

萩市内の各地域に関するもの、萩市で出版されたもの、山口県内の各地域に関するものを収集しています。原則として2部以上収集し、1部を保存用とし、もう1部は貸出をして提供しています。貴重な旧蔵資料を除き、ほとんどの資料を郷土資料コーナーに配架し、自由に閲覧できます。今後は、萩市の特に旧町村部に関する未所蔵の資料の収集に努めます。郷土資料コーナーの中には、「吉田松陰コーナー」や「山口県出身の作家コーナー」を設け、より多くの市民に興味を持っていただけるよう利用促進を図っていきます。

[維新史関連資料]

明治維新胎動の地・萩の図書館として、維新史関連資料は、萩市民に対してだけでなく、全国の郷土史や維新史の研究者にも役立つよう、萩にちなんだ資料だけで

なく、幅広く専門書を含めた高度な資料の整備に努めています。

今後は、貴重な古書資料の収集に重点を置き、配架（分類）方法を検討し、維新史関連コーナーの資料の充実を図ります。

[地域資料・地域行政資料]

公的機関が発行する地域資料を網羅的に収集できるシステムを構築し、情報提供窓口としての市民サービスを開始します。

萩市の各部の基本計画書や統計年報などのほか、商工会議所、農協、漁協などの統計資料や要覧、報告書、等の資料を納本していただき、提供された資料は萩図書館の行政情報コーナーに配架し、併せて図書館ホームページにデジタル化したものを公開します。

4) デジタルアーカイブの充実

図書資料をデジタル化して保存し、公開していくデジタル・アーカイブ事業は、開館来積極的に取り組んでいます。

当館は、明治34年（1901）全国初の郡立図書館として開館した経緯もあり、藩政時代から維新时期にかけての貴重な古書籍を沢山所蔵しており、これらをデジタル化することで、郷土史愛好家や研究者が簡易に利活用出来ることや、原資料の劣化、損傷を防ぐことが出来有益であると考えます。

○デジタル化している資料——— 101点

＊和漢古書—— 96点（留魂録、孫子評註など）

＊郷土資料—— 0点

＊その他—— 5点

○今後のデジタル化予定資料——— 250点

＊和漢古書—— 80点

＊郷土資料—— 70点

＊その他—— 80点

5) 電子図書館の整備・充実

電子図書館は、インターネットにつながったパソコンの画面上で、紙の本をめくる動きで「電子書籍」を読むことが出来るネット上の図書館です。

来館しなくても自宅で貸出、閲覧が出来ます。遠隔地や障がい、高齢などで来館が難しい方へのサービスとしても期待されます。

しかしながら、現況は、書籍や資料のコンテンツが充分でないこともあって、利用登録者は214人。利用点数は月平均175点といった数字で推移しています。

○ 現在の電子書籍の蔵書数と今後の購入予定

＊ 総記——— 34点——— 50点==== 84点

＊ 哲学——— 33点——— 50点==== 83点

* 歴史	44点	100点	==	144点
* 社会科学	88点	300点	==	388点
* 自然科学	63点	100点	==	163点
* 技術・工学	25点	100点	==	125点
* 産業	18点	50点	==	68点
* 芸術・美術	33点	50点	==	88点
* 言語	46点	100点	==	146点
* 文学	118点	200点	==	138点
* 音声・3D資料	65点	200点	==	265点
(合計	1635点	1300点		2935点)

電子書籍に関しては、著作団体、出版団体、送出機器団体のそれぞれに立場があり、著作権等を含めた協議が整わないのが実情で、公共図書館向けに販売できる書籍数は限られたものとなっています。

また、国立国会図書館が行っています所蔵本のデジタル化は、国の予算措置を受けて順調に進んでおり、この成果物を公立図書館の利活用に供するという方針は、大方の理解を得て実施に向け協議が進んでいます。とはいえ、画面上で一般図書と同じように電子書籍を自由に選択して楽しむには、いまだ少し時間がかかりそうです。

■レファレンス体制の強化について。

図書館活動の基本は、適切な選書による「読みたい本」「読んでほしい本」「課題解決のための参考本」を十分に揃えて、利用者の知的興味、探究心を満たすことが肝要ですが、利用者が求める適切な資料を迅速に入手し活用するには、図書館員が、図書案内のほか、調査・研究のための資料、情報、知識、人を提示・紹介してサポートすることが欠かせません。このことを、レファレンスサービスといいます。この能力を高めることは、図書館の存在意義を大きく支えることとなります。

当館は、二つの手法でレファレンスサービスの向上を目指します。

一つは、NPO職員の研修カリキュラムを年間計画で組み、利用者の求める主題知識を広める自己研鑽に努めてもらうこと。また組織として、効果的なQ&Aの作成や、典拠カード、用途別図書リスト等のコレクションの整備に努め、外部の力を借りるため、専門家や専門機関のリスト作成と平素の交流をすすめる、レファレンスサービスがスムーズにいくよう努めます。

二つ目は、すでに始めているのですが、「郷土史・維新史レファレンス専門員制度」の導入です。これは、郷土史、維新史に特化したレファレンス専門員を毎週金・土曜日の2日間、2階のコーナーに常駐していただき、密度の濃い調査支援を行うものです。

ここにはNPOの職員も同席し、一般レファレンスに対応するほか、専門員の郷土史、維新史に関する知識、手法を学ぶことが出来、将来に向けた能力啓発に役立つ試みです。

以上